

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2007 Autumn

10月20日発行 No16

スワン視察で 舛添厚生労働大臣熱く語る



記者団に囲まれて質問に答える舛添一厚生労働大臣、スワンカフェで

福祉はロマンだ! Series08

ヤマト福祉財団賞 受賞者は今...

力量に応じて働き、必要に応じて
収益を分け合う徹底した共生

永山 盛秀さん 障害者のための地域生活支援・就労援助の
ふれあいセンター 相談員

平成19年度障がい者福祉助成金の贈呈式を行いました

障がい者奨学生レポート

夢を実現するのは"できる"と思う気持ち

今年も"はつらつ"
パワーアップセミナー

私が作業所を"変える"

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便
配達

障がいのある人達が、街でイキイキと働く姿を、
もっと多くの方に知ってほしい。もっと伝えたい。

YWF TOPICS

スワンはノーマライゼーションの典型

これからの障がい者自立支援のあり方を示す

舛添厚生労働大臣

スワン視察で熱く語る



記者団の質問に答える舛添大臣



大勢の報道陣であふれた

働ける人は、
自分で働くことを選ぶ
——
これが障がい者支援の姿

舛添要一厚生労働大臣は就任されて間もない9月5日、スワンベーカーリー銀座店（東京）を視察に訪れました。買ったばかりのあんパンをほおばり、「まだ熱い、おいしい。うん。これだったら勝負できますね」と、破顔一笑。取り囲んだ記者団の質問に答えて、なぜスワンベーカーリーを視察に選んだか、障がい者の自立支援、ノーマライゼーションの思想などについて熱く語りました。

大臣・クロネコヤマトの小倉さんが福祉財団をつくられたことや、小倉さんの本も読んで、スワンベーカーリーの存在も知っていました。それで、障がい者の自立支援はなんなんだ、という思いがいつもあったんです。

障がいの度合いにもよりけりですが、彼らは税金で支援されて、食べていくのではなく、仕事をして、自分でお金を稼いで税金を払っているんですね。ここ（スワン）で働いている障がい者はそっちの立場を選んだ。

私はしょっちゅうパンを買いに行っています。値段も味もまったく遜色がない。（記者団に向かつて）めちゃくちゃおいしいですよ。みなさんに食べさせてあげたいくらい。

だから、売れるものをつくる、お金儲けをする、給料をちゃんともらう、そして税金も払う。自分たちがつくっ



「仕事を通じて社会参加を果たしているんですね」と舛添大臣

「おいしい、みなさんにも食べさせてあげたい」



工場スタッフにも激励



質問に答えながらレジを打つ大崎さん(左)

ノーマライゼーションの3原則 スワンはノーマライゼーションの 典型例

大臣…ノーマライゼーションは、デンマークで1959年頃にはじめてその思想が出てきたんですね。ノーマライゼーションの原則が三つ

て、売っているんだ、という誇りを持って、胸を張って堂々と生きている。これが今からの障がい者支援の姿だと思えます。ただ、重度の方は別に手当をしなければならぬと思えますが、働ける人は働いていく——これは非常にいいモデルだと思えます。つまりこれが税金を減らす道なんです。これがノーマライゼーションの思想なんです。

くらいあって、一つは、失われた能力と考えるのではなく、残された能力を活かそう——例えば私は、指が5本あります。事故で、4本失って1本残ったときに、指が4本ないからダメだ、になるのではなく、残った1本で、パソコンを打って本を書いたら…。まだ能力が残っているわけです。残った能力を活用する、これが第1の原則です。2番目は、自己決定の原則。例えば、私はパン屋さんに行つて働きたい、これがやりたいと自分で決定することです。

第3は、人生の継続性の原則といいます。例えば、私が交通事故で急に車椅子になって、ここまでパンを食べに行きたいというのに、食べに行けないのはおかしい。じゃあ、車椅子が通れるようなバリアフリーにしてください、という考え方——

北欧先進国は48年前からこのようなことをすすめていたわけです。スワンはノーマライゼーションの典型的な良い例です。

ただ、障がい者がつくったパンだからといってまづけていいと言ふことはありません。人はおいしいから買うのであって、そこまで期待水準を高めている。そういう意味でもスワンは良い例だと思えます。

障がい者雇用と 障害者自立支援法

記者…障がい者の雇用の場はまだまだ少ないという声がありますが…

大臣…企業にも社会的責任があり、大きな企業ほど障がい者を雇いなさい：そういう企業を社会的に尊敬すべきだと思えます。ただ金儲けする会社はだめで、企業がどれだけ社会に貢献しているかを加味して、消費者はものを買いましょう、といたいですね。

記者…障害者自立支援法に対し、民主党が改正を求める方向で検討していることへの評価は

大臣…一緒に議論し、民主党の案がよければそれを採用すればいいのであって、彼らにもよい面と悪い面があり、我々もプラスマイナスがある。それを総合して柔軟に考えます。

この視察の様子は、各メディアで報道されました。



外販に出かける相馬さん(左)を激励

※1959年にデンマークでバンク・ミケルセンが提唱。「ノーマライゼーションの父」と呼ばれる。

ヤマト福祉財団賞 受賞者は今……

力量に応じて働き、必要に応じて 収益を分け合う徹底した共生

永山 盛秀さん

障害者のための地域生活支援・就労援助の
ふれあいセンター 相談員



保健行政の立場から、離島を巡って心を病む人々の支援活動を重ねるうち、「これらの人々を主人公に、真の自立実現のための運動の一つのモデルをつくりたい」という思いがつのり、やがて「無理して雇用されるより皆で協力して事業経営を」と障がい者の手による会社づくりを指導し、自らもそこへ身を投じてみんなど一緒に活動する…。今回は第4回受賞者の一人、南国沖縄の永山盛秀さん。

取り組む仕事はヤマト運輸メール便配達をはじめ警備、清掃、印刷、物品販売

『ふれあいセンター』は、まるで知恵の輪のようにつながった三つの組織で構成されています。これを図式化すると、真ん中に精神障がい者仲間が結成した「NPO法人ふれあいセンター」があり、左にこれを支援する入会誰でも自由の任意団体「メンバーズクラブふれあいセンター」、右に自立へ向けての実戦部隊とも言うべき「有限会社ふれあいセンター」があります。

1999年(平成11年)4月、永山盛秀さんは、沖縄県精神障害者福祉会連合会事業部長の職を辞して「有限会社ふれあいセンター」に飛び込みます。職名は世話人。そこには、障がい者らのつよい引きと「障がい当事者を主人公にした、自立を巡る運動の一つのモデルをつくりたい」という保健所勤務時代からの永山さん積年の高い志と夢があったものと想像されます。考えてみれば、有限会社も永山さん

が主導して設立されたものでした。

同センターは現在、ヤマト運輸のメール便配達をはじめ、警備、清掃、印刷、物品販売などの営利事業を発売に行っています。事業活動の主役は約50名の心を病む人々。その中に溶け込み、時に仕事仲間となり、時におやじ、兄貴となつてみんなを引っ張っているのが永山さん。「夢の実現はまだほど遠いですが」と永山さんは笑うが…。



● 会社内での作業風景



いざ出発。メール便の配達へ。



ふれあいセンターの本拠地。

大学仲間の発病に衝撃を受ける

永山さんが「精神」に関心を
持ったのは大学(琉球大学保
健学科)1年のとき。大学仲間の一
人が統合失調症を発病したのがき
っかけでした。極度の被害妄想に
取りつかれてオロオロするその仲
間を見て、人間というものの不可
思議さに衝撃を受けます。よし、
大学卒業後は保健所に勤務し、地
域を巡り、心を病む人たちのため
に働きたい、と決
意するのに時間は
かかりませんでした。

永山さんの進路
をきめたその仲間
との出会いは、先
頃他界された精神
医学者、秋元波留
夫先生の場合とよ
く似ています。秋
元先生を精神医学
の道に進ませたの
は、一冊の本の序
文でした。その序
文とは、石田昇(精
神医学者)著『新撰
精神病学』の次の
一節。

精神病は社会
のすべての階級
を通じて発現す
るところの深刻

なる事実なり。いかなる天才、
人傑といえども、ひとたび本病
の蹂躪に遭わば性格の光、暗雲
の底に埋もれ、昏々として迷妄
なる一肉塊となり了らざるもの
まれならん(後略)

「そのときわたしは」と秋元先生
は自著『99歳精神科医の挑戦』の

「職親制度」の弾力的活用が奏効

かし、仕事としての精神保
健への道はすんなりとはい
かない。1年留年し、一般行政事
務で県庁入り。1976(昭和51年)
でした。沖縄は日本復帰後4年を
経過していましたが、県内はまだ
米国統治の名残から脱け出せず、
落ち着かない状態。永山さんが最
初に内示を受けた職場は警察関係。
せっかく保健の勉強を積んできた
のにとこれを断る。やがてコザ保
健所精神衛生相談員を発令される。
79(昭和54)年には八重山保健所
へ異動。石垣島を中心に、波照間、
竹富島など各離島での精神衛生活
動にたずさわる。

その頃の主な仕事内容は、家庭
内に軟禁状態にされている障がい
者を探し出し、これを病院に入院
させること。障がい当事者はもち
ろん、家族の協力が不可欠で簡単

中で書いています。

「どんなに優れた人でも「ひとた
び本病の蹂躪に遭わば」、「迷妄な
る一肉塊」に変えてしまふ精神病
とはいったい何ものなのか、とい
う思いに駆り立てられた。これが
精神病を勉強しようという動機に
なった(後略)」と。

永山さんの目にも、被害妄想に
くるしむ仲間の姿が石田昇のいう
「昏々として迷妄なる一肉塊」に見
えたのかも知れません。

「職親制度」の弾力的活用が奏効

な仕事ではない。しかもそこでは、
障がい者はその人格としても社
会人としても扱われないことが多
く、永山さんは、これはおかしい、
間違っている、と思うことがしば
しば。

様子が変わったのは1989(平
成元年、南部保健所に転勤になっ
た頃から。あるとき、一人の障が
い者が、退屈だから保健所へ遊び
に行ってもよいか、と言った。「いい
よ」と永山さん。

「でも、自分は仕事があるから相手
にはなれないよ」
遊びに来ていた彼を見て同じよ
うな障がい者が一人、二人とやっ
てくる。それはさらに口コミで伝
わり、多いときは40名を超えるほ
どになった。

それまで保健所へ来るのは障が
い当事者ではなく、ほとんどの場

合その家族——障がいを持つ子の
親などだった。うちの子が引きこ
もってばかりいるけれどどうした
らよいか、などといった相談ごと。
そのうち相談にやってきた家族は、
相談室にたむろしている障がい者
らと言葉を交わすようになる。自
分の子どものことしか知らない親
は、「うちの子は怠け者、働く意欲
がない」などと悩みごとを言う。
これに対して返ってくる言葉は、
「ぼくにもこんなことがあった。今
も幻聴があるんだよ」

子ども同様の障がいを持つ人の
そんな体験談を聞いてびっくりす
る。で、次回は自分の子どもを連
れてきてみんなの仲間入りをさせ
る…。

永山さんは、怠け者だというけ
れど、障がい者みんなの真の願望
は「働く」ということだな、と考
える。みんなはとにかく行くこと
ろがないから集まってきた。毎日、
おしゃべりばかりしている。いつ
までもこれではいかなんというこ
とは当事者自身がいちばんよく知
っている。そこで、意識的に働く
ことを話題にするように仕向ける。
そして手がけたのが職親制度の活
用でした。

当時はまだ、この制度を受け入
れる一般業者は少なかった。業者
はこの制度を利用して障がい者を
雇用すると、1ヵ月20日間を限度
に1日2000円の委託料が入る
が、障がい者の指導監督に手間ひ
ま取られて収入以上に負担が大き

● 全員集合。昼食後のミーティング。



● 精米機を使ってお米の宅配も



い。やってみても続かない。で、永山さんは、1カ月20日を1カ月1週間に短縮した。しかも場合によっては1日1時間から。これは、障がい者を雇用する側も雇用される側も1日4〜5時間も継続就労することは困難、という実情を知っている上での智慧。

が、県がこれに難色を示します。短期、短時間の就労はダメ、と。永山さんはいつまでもこのやり方を続けるつもりはない、仕事に慣れてきたら制度どおりに戻す、と県の理解を求めます。結局、永山方式によって制度の利用率が高まり、医療面でも効果をもたらしました。それを機に、障がい者の就労意欲が一段と高まってきました。

1995(平成7)年4月、永山さんは中央保健所に異動。この異動にともない、永山さんを慕う南部時代の障がい者が中央保健所に集まってきたのは自然の成りゆきと言っべきか。

翌96(平成8)年4月、永山さんは20年勤めた沖縄県職員を退職。定年にはまだ十数年を残す48歳のとき。同年5月、社団法人県精神障害者福祉会連合会事務局長に就任。

県職員退職の理由について永山さんは、「これまでやってきたことをもっと徹底してやりたかった」と言い

ます。

「徹底してやりたい」という永山さんのつよい意思是、県連合会事

障がい者の一言から起業を着想

有 限会社ふれあいセンターは、その誕生の由来が面白い。

障がい者の就職は、職親制度の活用などを通じてかなり改善されますが、うまく運ばないケースも少なくありません。面接を経てもらううじて受かつてもすぐ辞めてしまう。体力や技術の問題ではなく、人間関係がうまくいかない。そんな人たちはどうしたらよいか。みんなが集まったとき、永山さんは「どんな仕事に就きたいか」とたずねてみた。返ってきた答えは「保健所の所長」だった。

肉親などからの完全自立を目指す

有 限会社ふれあいセンター」に託す永山さんの「夢」とはいったい何か。

センターは数項目にわたる理念を掲げて活動しています。理念の中で力点を置いているのが「自立」。「親兄弟姉妹からの精神的経済的自立を目指す」としています。「無理

業部長を辞して「有限会社ふれあいセンター」の経営に専念する道を選ぶことによって示されます。

ど、見た目には仕事にゆとりがあつて、しかも自分にできない部分は部下にやらせる。障がい者らの思いは分かる…。

何を他愛ないことを言うかと一笑に付してしまわれないのが永山さんの非凡なところ。そしてこのとき、永山さんの頭に会社の「重役」という職業がひらめいたと言います。会社をつくり、その経営陣(重役)を障がい者で固める。

で、障がい者関係者から1万円ずつ出資してもらい、300万円の資本金を集めました。会社設立時のみんなの誓いは、今後10年以内に収支を黒字にし、次の10年以内に県内トップクラスの有限会社に育てること。

③力量とは体力、気力、技術力、知識、経験および精神症状の回復具合のすべてを総合したもの——以上3点。

中でも注目されるのは②の「それぞれ力量に応じて働き、必要に応じて収益を分け合う」という点。これは一般的な成果主義の考え方と基本的に異なります。働けるものはどんどん働く。しかしその成果は各個人それぞれの必要に応じて分け合う、というのがどうやら永山さんの理想のようです。

「この考え方が実現すればそこはまさにユートピア。そこでは、弱者」という概念はなくなるのでは」と永山さん。

病状によって働けないからといって給料が極度に削られることはない。逆に飛び抜けて働いたからといって特別高い給料をもらえるわけではない。それではよく働く人の間から不満が生まれませんかと訊くと、「くすばりはしますよ」と永山さん。で、社員にスタッフ、準スタッフの「役職」を設け、意識面での調整を図っているようです。何しろこの会社の社員モラルの第一は、「本心に仲間をだいにしているかどうか」であつて、能力は二の次。スタッフなどの人事や給料は、NPO法人ふれあいセンターなど3団体の代表によって民主的に決められます。

永山さんの「夢」の輪郭がぼんやりと見えてきた気がしました。

取材・文 高田三省



今年も「ばつらつ」パワーアップセミナー 私が作業所を「変える」

パワーアップセミナーは、障がい者の自立に欠かせない収入アップをめざすため、障がい者施設の職員の意識改革と経営力を高めるために開催しているものです。今年、12年目を迎えました。

障がい者施設のなかで、圧倒的に多いのが全国に6000カ所以上あると言われている小規模作業所です。

ここで働く障がい者は9万人を超えています。しかし、障がい者の月給は全国平均で7343円（2005年度、きょうされん調査）という低さです。

障害基礎年金（2級）と合わせても月収は10万円に満たない状態で生活をしていかなければなりません。作業所に通うための交通費や食費もかかります。

「障害者自立支援法」が施行されてから、この少ない収入のなかから、さらに、施設の利用料（応益負担）が求められるようになりました。

小規模作業所などの障がい者施設は、障がい者が応益負担をはね返して自立して生きていけるよう高い賃金を支払う責任があります。そのためには、職員の意識改革をすすめる、経営力アップをうながし、施設が高い収益を上げる事が重要です。

パワーアップセミナーはその実現のために開催されています。

セミナーは、経営コンサルタントの講義、実績をあげた人たちや施設の成功事

全国
5会場で
開催

例の発表、就労支援のあり方、クロネコメール便配達の実例、参加者を交えたディスカッション、など多岐にわたりに行われました。

山崎理事長は、基調講演のなかで「昨年は福祉の世界が、従来の保護から自立へと大きく舵を切った年、ダーウィンの進化論を解釈して、生物が長い進化のなかで生き残る条件は、強いからとか、能力があるからというわけではなく、環境の変化に対応できることだと言った人がいます。小規模作業所も同じ、時代が刻々と変化していくなかで生き残るには福祉の世界も無関係ではない」と強く意識改革を呼びかけました。

2泊3日のスケジュールを終えた参加者たちは、「自分自身が行動して、作業所を変えねば」「私たちの努力で早く障がい者の自立を実現しよう」・・・と目を輝かせていました。



まだ、「月給1万円からの脱却」にはほど遠い！

参加者の施設・作業所工賃の実態(月額)

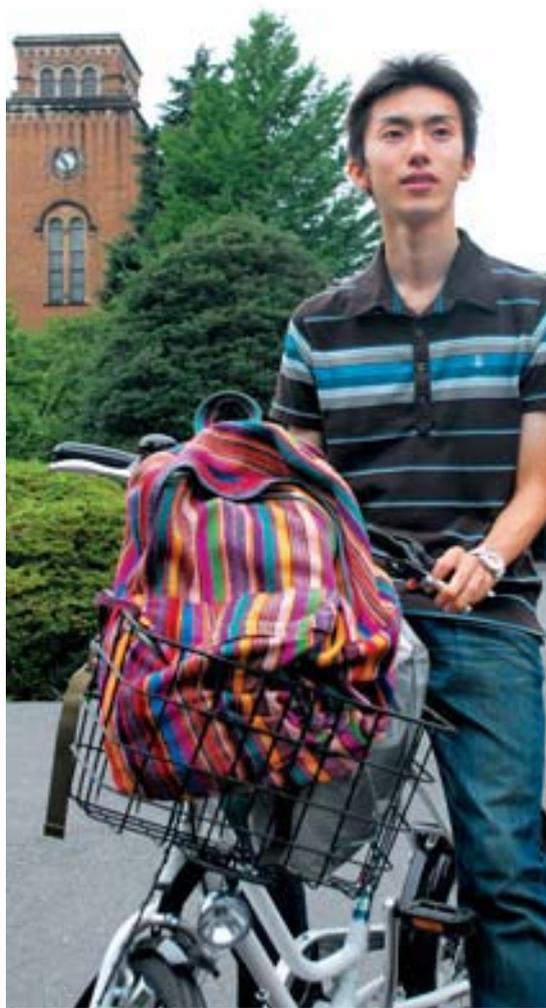
ブロック	九州	関東	北海道	中部
	沖縄 中国・四国	甲信越	東北	北陸 関西
開催日程	7月5日～7日	7月19日～21日	9月6日～8日	9月27日～29日
最高給料	34,202円	42,746円	60,000円	40,000円
最低給料	1,100円	200円	1,839円	1,500円
平均給料	7,822円	9,315円	10,056円	10,990円

※ブロックごとの最高・最低給料を表記、平均は作業所の平均給料から算出

10月25日～27日、東京にて全国を対象に中級編を開催予定

夢を実現するのは 「どじき」の「ど」で思いこみ持ち

障がい者奨学生レポート



<プロフィール> 頸椎損傷による両上肢機能障害、両側下肢機能の著しい障害（2級）。高校3年の7月に海で飛び込み、首の骨を骨折。賢明なリハビリの末、歩くまでに奇跡の回復。無事、高校卒業後、現役で一橋大学に入学。現在は水泳部のマネージャーも務め、将来は金融関係へ就職するとともに社会に貢献にしたいと語る。

奇跡の回復。その言葉の重さを誰よりも噛みしめているのは、森君自身です。

トライアスロンの選手のように砂を蹴って海へと飛んだ次の瞬間、目は開いているにもかかわらず真っ暗闇が広がっていました。呼吸しようと思っても身体が動きません。「ああ、死んだ……」それを最後に意識

識は途絶えたそうです。

病院のベッドで目覚めたとき、動くのは首から上と左足の親指だけ。医師からは下半身不随、もしかすると寝たぎりの可能性もあるとも聞かされましたが、不思議と涙は出ませんでした。「ああ、おもしろい人生になったなって。あまりに衝撃的すぎて笑ってしまいました」

森 泰樹さん 一橋大学商学部1年

がんばらない。 ただ、しぶとくしたたかに

リハビリはすぐに始められました。「もうやるしかない。くよくよしても仕方がないし」最初は起きあ



「団結力が水泳部の魅力です」と森さん

がるだけで座り眩みがするほどでしたが、課題をクリアすることが面白く、気がつけば3ヵ月後は退院。

それは医師も驚く回復ぶりでした。なんと高校卒業の目途は立ったものの、受験勉強の遅れは否めませんでした。銀行マンの父親、経営コンサルタンの叔母の影響もあり、第一志望は一橋大学。しかし秋になって

も、右手はマークシートを塗りつぶすのにも苦労する有り様です。記念受験のつもりで試験には臨んだと森君は語りますが、塾から帰宅するのは12時を回る毎日でした。なんとか現役で合格したものの、両手が上がらず、腕立て伏せもできない。肺活量も四分の一に落ち、痛覚や温度の感覚もいまだ戻っていません。ジムに通ってリハビリを続ける一方、水泳部のマネージャーになったのもリハビリが目的、「今のうちに体力をつけておかないと。社会に出たらキツイとか言っていられないので」。

この体験を通じ、森君は考え方にすこし変化があったと言います。病院で彼は同じ年、同じ境遇にある女の子と知り合いました。新体操で2年前に怪我をしたという彼女は、呼吸器を外せない状態。

「僕なんかいい方じゃないですか？歩いているし。こういう子も沢山い

るんだなあ、僕以上にがんばっている子って。いや、別にがんばっているわけじゃないんですけどね。なんとなくいいのかな、みんなごく普通なんですよ。メールもするし、絵文字も使うし……」

無意識のうちに障がいのある人たちに対して勝手なイメージを押しつけていたと感じています。そして「やろうと思えば何でもできる。できないうちで思ったら、やっぱりできないんで。頑張らないけど、しぶとくしたたかに」やることはやる、プラス思考に変わったそうです。

夢だったマーケティングに関わる仕事にも就きたいし、困っている人の助けにもなりたい……。森君の夢はまだ始まったばかりです。



インカレ出場から初心者まで、幅広い選手層の一橋大学水泳部



水泳経験を活かして、チームを支える

夢を持っているひとを応援したい！
 私たちは奨学生の方々が
 社会で活躍する日を心待ちにしています。

障がい者奨学金制度

当財団では、障がいがありながら、夢に向かって努力している大学生（4年制を対象に、月額5万円の奨学金を支給しています（返済不要）。現在、この制度の利用者は34名です。



「キャンパス内の移動はほとんど支障がありません」



環境が整っている中央大学でも、八木さんが特に好きな図書館



お料理も得意な八木さん。この日の昼食は学食で

向いていると思つ」と奨めたのです。八木さんの出身である沖縄は、過去の歴史から憲法などの議論が盛んな土地柄。先生の言葉は、自然と司法への関心を膨らませました。そんな折、困窮する障がい者のために一生懸命、行政に働きかける弁護士姿を見る機会を、彼女は得ます。八木さんの関心を耳にした知り合いの方が、その場への立ち会いに誘ってくれたのです。

弁護士になろう、社会的に弱い立

場へと追いやられている人の代弁者になろう。心は決まっていました。それからは法学部に狙いを定め、本格的な受験勉強を開始。受験相談を通じて、障がいに理解の深かった中央大学に晴れて合格しました。移動は電動車いすの八木さんですが、キャンバスライフにほとんど支障がありません。ただし買い物や合宿など、知らない場所や駅に行くときは、友だちやその場にいる人に手伝ってもらっているそうです。

「自分が車いすだということで、小さい頃から、できることとできないことはしっかりと意識せざるを得ませんでした」

んでした。でも、できることもたくさんあります。一般の学校に通った経験から、こういうことを手伝ってくれたら、自分もこういうことができるよ、と自分をアピールしていく術が身につきました。自分が何も言い出さないと、相手が勝手に判断してしまえばかりで、いつまでも仲間に入れないままになってしまいますから」

基礎ゼミで法解釈について学ぶほか、法律を討論するサークルにも参加。多くの人から刺激を受けて、これまでの視野の狭さを痛感しているという八木さんは最後にこんなメッセージをくれました。「世の中から、ボランティアとか福祉という概念がなくなるのが私の理想です。お互いが自然にいろんなことを補い合える社会へ。そのために私は、自信を持って世の中に出ていきたいんです」

「自分で思ったより、すごく勉強が大変なので、精神力も含めて自分の力を試されていますね。すごく刺激を受けています」そう語る八木さんはこの春から法学部で、弁護士を目指しがんばっています。

骨がもろい先天性の病気のため、幼稚園から小学3年生まで通学はいつも母親といっしょ。それでも小学校の高学年を除いて、高校までは一

般の学校に通ってきました。もともと人と話をしたり、文章で何か表現することが好きだった八木さんは、高校で貴重な出会いをします。進路について長く悩んでいた彼女の相談ののってくれた恩師です。障がいについて、地元の小中学校でボランティアの講演をしたこともある八木さんに「声なき人の声になる」。そういう職業があなたには

八木あゆみさん 中央大学法学部1年

夢は表に出さないと実現しない。
 それが一番大切になっている言葉



<プロフィール> 先天性骨形成不全症による両下肢機能障害（下3級）。幼少より入院や手術を経験。医師や看護師が患者と向かう姿から、生命や人権といったテーマに関心を持つ。社会の根幹を成す「法」の視点から生命の尊厳や人権を見つめ、すべての人が平等に生活している社会の実現に役立つのが将来の目標。

この街で、
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

障がいのある人達が、街でイキイキと働く姿を、 もっと多くの方に知って欲しい。もっと伝えたい。 〜リーフレット制作の現場から〜



私を、待っていてくれる人がいます。

街で、障がい者が働いている。
そんな風景、あたりまえにしたい。

青森県五所川原市 精神障害者施設「青松園」所属の工藤さんと大橋さんを五所川原鉄道の踏切で撮影する平間氏。2年前の開始当初は月間200冊程だった物量も、現在では月間約5,000冊と、東北地区トップの配達量をこなすまでに成長。配達エリアも1エリアから約600世帯をカバーし、今ではヤマト運輸にとって無くてはならない戦力となっています。

2005年、事業推進の目的で初めて制作された「障がい者のクロネコメール便配達事業リーフレット」。
この程、参入施設・作業所の増加にともない、リニューアル版が制作されました。
熱意に満ちたスタッフが集まった、制作の現場をご紹介します。

「本当なら、スゴク緊張しているはずなのに、とてもいい表情を見せてくれる。サイコーの笑顔を撮らせてくれる。カメラマンとしても、やりがいがありました。」

「障がい者のクロネコメール便配達事業」のリーフレット制作で、撮影したフォトグラフィアの平間至氏は、こんな風にとたえてくれました。

2004年10月にスタートした「障がい者のクロネコメール便配達事業」。3年が経過した現在(2007年9月)、全国で213箇所の施設・作業所が参入し、816名の障がいのある人達が、クロネコメイトとして働いています。

ヤマト福祉財団では、これらの活動をもっと多くの方に知っていただき、障がいのある人達

の就労に対する理解を深めていただこうと、2005年12月にリーフレットを作成しました。
その内容は、クロネコメイトとして仕事をする彼らの働く姿とメッセージで構成されています。

**配達に出かける
メイトさんを
追いかけるながら、撮影。**

「この事業の意義を知っていただくには、実際に働いているクロネコメイトさんを、できるだけ真実に近い姿で伝えることが、いちばんの方法ではないかと考えました。」(制作スタッフ)「それほど、イキイキと働いている彼らの姿は、こちらにズンズンと伝わってくるものがあったんです。」



(上)「ふれあいセンター」所属の金城さんを撮影中。障がい者によるクロネコメール便配達はこの施設から始まり、全国に広がりました。

(右上)「青松園」所属の三上さんを配達エリアの住宅街で撮影。この日は車道近くでの撮影だったため、多くの方の協力で撮影が進行していきました。ヤマト運輸青森主管支店 黒田主管支店長はじめ青森主管支店のみなさんには、まる2日間、撮影におつき合いいただきました。



こうした制作スタッフの考えで、リーフレットは、実際に障がい者の働く現場で取材。その日の配達に同行して、話を聞かせていただきながら撮影、というスタイルを続けています。

今回のリニューアル版の制作では、沖縄県裏添市 精神障害者施設「ふれあいセンター」、大阪府吹田市 中途障害者施設「第三工房ヒューマン」、青森県五所川原市 精神障害者施設「青松園」の3箇所のロケを敢行。

それぞれの場所で、一生懸命に働くメイトさんの姿を、フォトグラファーの平間氏とスタッフ



「第三工房ヒューマン」所属の高橋さん、赤木さんと撮影前におしゃべり。2人はいつもコンビを組んで配達。漫才コンビのような楽しいやり取りに、取材スタッフも笑わされてばかり。担当医も高橋さんの気力と変化に、びっくりしたといっています。

フが追いかけてきました。

「地図を見ることもなく、スイスイと配達をこなしていく姿にビックリしました。追いかけていくのが、大変なぐらいです(笑)」と平間氏。その配達の間、写真撮影が行われたのですが、みなさんとても気さくで自然。冒頭の平間氏の言葉のように、あたたかな表情をスタッフに向けてくれました。

最初は一日に数冊しか届けられなかった、という話を聞いていたと、その笑顔の奥に、ここまでがんばることのできた自信と、達成感を感じ取ることができました。

平間氏の写真は、これまでの障がい者支援のPR写真とは違う、社会で悩み、努力し、希望を見いだす一人の障がい者の、リアルな人間像を見事に写しだしたものでした。これらの写真と彼らの言葉で構成されたリーフレットは、啓発広報ツールの域を超えた作品として、各方面から高い評価を得ています。

また、平間氏の写真は、障がい者週間のイベントやスワンカフェ赤坂店でも展示され、多くの方から共感をいただきました。

「毎回のことですが、訪問しただの施設でも、とても親切な対応をしていただきました。積極的に取材や撮影の協力もしていただき、本当に感謝しています。」「また、どの取材でも、ヤマト運輸の担当者、熱心に協力していただけたことが印象的でした。青森では、青森主管支店長をはじめ4名の社員に2日間にわたり協力をしていただき、この事業に対する熱意をひしひしと感じました。」(制作スタッフ)

青森主管支店の黒田主管支店長は「福祉施設の現状を知り、

住民の方、施設のみならず、そしてヤマト運輸の社員。多くの方のあたたかさに触れて。



フォトグラファー 平間至氏

ヤマト福祉財団とは、スワンカフェで、「ミーカフェ」の依頼をいただいた時からの付き合いになります。その時から、障がい者の支援のために自分でもできることがあれば、ぜひ協力したいと考えていました。撮影で、障がいのある人達が、仕事で成長している姿を目の当たりにして、仕事が人にとってどれほど大切なものかということも、あらためて気づかされました。障がい者のメイトさんが、全国で増えていると聞き、本当によかったと感じています。これからは、「ミーカフェ」をはじめ、さまざまな機会をつくって、応援していきたいと思っています。

広告やエディトリアル、CDジャケットの写真を中心に幅広く活躍。被写体をまっすぐに見つめた写真は多くの支持を得ている。写真集「MOTOR DRIVE」(光琳社)、『捨て猫ミーちゃん』3部作(河出書房新社)、『NO MUSIC, NO LIFE』(マガジンハウス)など多数。
http://www.itarujet.com/

真摯に働く彼らの姿を見たときに、障がい者の人達に優先してメール便配達の仕事を提供するという意義を痛感しました。」と語っています。

障害のある人達が地域で生きていくためには、企業、そして社会全体の支援と理解が不可欠です。障がい者の就労支援と同時に、この実態を一人でも多くの方に知っていただくためのこうした活動も、続けていかなくてはなりません。



配達に活用します

ほほえみ ヤマト財団が車寄贈

【千歳】ヤマト運輸の財団（東京）から、配達メール便配達を請け負っている、千歳障がい者就業支援センター「ほほえみ」に心の病や精神の障害のある人たちが十九人が所属し、食品の加工やピアスアクセサリー作りなどの

の仕事に従事している。同財団のあっせんでは、昨年八月からメール贈呈書を受け取るほほえみの中山伸也常務理事（左）と、寄贈された軽ワゴン車の便の配達を始め、現在は市内清水町、栄町など四地域で一日二百―三百通を配達している。これまで車がなかったため、夏は自転車、冬はそりを使って配達していた。今回、同財団の助成事業に選ばれ、念願の配達用軽ワゴン車を寄贈された。

平成19年度障がい者福祉助成金の贈呈式を行いました

ヤマト福祉財団 県内2作業所へ 計130万円を寄付

財団法人「ヤマト福祉財団」（山崎篤理事長・東京）は二十七日、大仙市大曲のNPO法人大曲ふれあい会「ふれあい作業所」と、由利本荘市西目町の同はまなす会「ゆうゆう作業所」に合わせて百三十万円を寄付した。

秋田市御所野のヤマト運輸秋田主管支店で行われた贈呈式には、社員ら約二十五人が参加。鍋内清美主管支店長が「全国



鍋内主管支店長（左）から贈呈書が贈られる荏司さん（秋田市のヤマト運輸秋田主管支店）

の作業所にクロネコメール便の手伝いをしてもらい感謝している。これからもメール便を通し、地域の人たちのつながりを深めてほしい」とあいさつ。ふれあい作業所の伊藤和夫施設長とゆうゆう作業所スタッフの荏司哲子さんに贈呈書を手渡した。伊藤施設長は「助成金を励みとして、今まででヤマトグループ社員や賛同上に、通所者の社会復帰を旨とし、頑張りたい」と感謝の言葉を述べた。助成金は老朽化した屋根の修理や手洗い所の設置に充てる予定。同財団は平成五年に設立。障害のある学生や障害者共同作業所などに対して、全国約十五万人のヤマトグループ社員や賛同者らから寄せられた資金で援助活動を行っている。

障がい者施設の改善、整備をはじめ出版や研修事業など、障がい者の自立と社会参加に関する事業への支援として、86件5560万円の助成が決定しました（障がいのある大学生34名に2040万円の奨学金を別途支給）。ヤマト運輸各支社・主管支店での贈呈式はもとより、施設へ出向いての贈呈式も各地で行われました。賛助会員のご協力や労働組合のカンパ活動など、みなさんの気持ちが障がい者の支援につながっています。

社財団 助成金贈呈式





東京支社

県内2団体に
助成金を交付
ヤマト福祉財団
ヤマト福祉財団の福祉助
成金贈呈式は二十四日、郡
山市のヤマト運輸郡山主管
支店で行われ、県内二団体
に助成金が贈られた。
助成対象に選ばれたのは
郡山市の「たいよう共同作



北信越支社

業所」(伊藤遼子所長)と
会津若松市の「キッチンモ
モ」(唐川カヨ子所長)で、
助成額はそれぞれ百万円。
助成金は作業所のバリアフ
リー化や事業に使用する自
動車購入に利用される。
贈呈式では、福田靖主管
支店長が各団体代表者に目
録を手渡し「助成金を活用
して事業を発展させてくだ
さい」とあいさつ、団体代
表者が謝辞を述べた。
同財団は、障害者を支援
する事業に毎年、助成金を
贈っている。本年度の対象
奨学金三十四件。



助成対象団体に目録を手渡す
福田靖支店長

ヤマト財団が県内
3福祉団体に助成
北上で贈呈式
ヤマト福祉財団(山崎
篤理事長)の障害者福祉
助成金贈呈式は二十六
日、北上市流通センタ
の北上トラック研修会館
で行われた。
ヤマト運輸岩手主管支
店の和田誠支店長が、葛
巻町の障害者作業所す
らん工房、大畑町の精神

障害者小規模作業所夢工
房、盛岡市の特定非営利
活動法人(NPO法人)
YouMeゆいこの
三団体の代表者に助成金
の目録を手渡した。
すらん工房には通所
者らの送迎用車両購入費
百万円、夢工房にはクロ
ネコムール便の配達に使
う自転車購入費十七万
円、YouMeゆいこ
には、切り干し大根を
作る際に活用するスーパ
ーフリーザー(冷凍庫)
一式五十七万円が贈られ
た。
同財団は一九九三年、
県内3団体に助成金を贈っ
たヤマト福祉財団の贈呈式



青森主管支店



中部支社

2007年8月12日



関西支社

福祉作業所に エアコン贈る
 院庄でヤマト福祉財団
 財団法人ヤマト福祉財団(東京)が、院庄の福祉作業所「D.E.A.I.工房 母恵夢」にエアコンを贈った。

同作業所は二〇〇三年五月に開所。昨年七月にNPO法人格を取得した「希福祉会」(院庄、政本連郎理事長)が運営している。現在は知的、身体、精神障害のあるスタッフ十五人が所属。天然酵母パンを作り、市内のこだわり食材の店や高校などに出している。

エアコンは業務用の大型で六月下旬、作業場に取付けた。同財団が購入と設置費用計六十万円を助成。七日に財団職員ら四人が同作業所を訪ね、政本理事長に、坂本学ヤマト運輸津山主幹支店長が目録を手渡した。(久岡広和)

日刊新周南

2007年8月7日

さわやか工房に助成金
ヤマト福祉財団から70万円
身体、知的受け入れにバリアフリー化

周南市橋町のNPO法人周南さわやか会(河本敏昭理事長)が運営している障害者の就労支援施設「さわやか工房(後藤周二施設長)が、宅急便のヤマト運輸が母体のヤマト福祉財団から二日、施設のパリアフリー化の助成金を贈られた。

同会は一九七八年(S53)に精神障害者家族会として発足し、作業所も家族を中心に無認可で運営してきた。六年前に現所在地に移り、下松市潮音入り口の段差をなくす、工費は八十万円で八月二十四日から三日間で完成させる。

同財団の助成は今年、県内ではさわやか工房を含め二件。同工房が助成を受けるのは初めてで、パリアフリー化は障害者自立支援法で身体、知的、精神の三種あつたサービスが一元化されたため、車いすの人にも利用しやすくと女性利用目録を手渡し、河本理事長



中国支社



施設に伺って贈呈式(鹿児島県・九州支社)

九州支社



まつば共同作業所で行った贈呈式(愛媛県・四国支社)

四国新聞

2007年8月1日

土庄の施設に 75万円を助成
 ヤマト福祉財団
 社会貢献活動の一環として、ヤマト福祉財団(山崎理事長)は三十一日、土庄町の社会福祉法人ひまわり福祉会(井上武夫理事長)に助成金七十五万円を贈った。写真。

同財団は一九九三年度から毎年、障害者施設などに助成を行っており、今年は全国で八十六団体、三十四個人に計七十六百万円を贈る。四国では

同福祉会を営む五団体。贈呈式は、同町土庄の知的障害者通所授産施設「ひまわりの家」で行い、同財団の内山修事務長が施設に通う二十四人の代表者に目録を手渡した。

同施設ではオリーブの栽培を通じ、通所者の心身の健康をほぐすことにも、収入源につなげる取り組みをしており、助成金でオリーブ栽培用のビニールハウス(約百平方メートル)を購入する。





左からヤマト運輸労働組合越川利勝前中央執行委員長、ヤマト福祉財団山崎篤理事長、あしなが育英会山北洋二常勤監事、ヤマト労連中豊留正副会長

**労働組合の「夏のカンパ」より
4,500万円の寄付を
いただきました。
ありがとうございました。**

ヤマト運輸労働組合の第62回定期中央大会が9月19・20日の2日間、グランドプリンスホテル新高輪（東京）で開催され、この席上で夏のカンパの贈呈式が行われました。ヤマト労組とヤマト労連の協力により、今年は5,690万円が集まり、そのうち、4,500万円が財団に寄付されました。

この夏のカンパは、財団設立以来毎年いただいております。財団事業活動の大きな力となって活かされています。



「小倉前理事長の高い志を実現するためにがんばります」とお礼のあいさつを述べる山崎理事長

**お待ちかね!!
今年のクリスマスケーキ
勢ぞろい 新商品を開発**

クリスマスケーキの新作が披露されました。今回の目玉は原材料に卵・乳製品を使用せずに作った体にやさしい「ハッピーフルーツケーキ」。乳製品の入ったケーキが苦手なお子様も今年は家族と楽しくケーキを囲んでください。



ハッピースノーマン

かわいらしい雪だるまのケーキをテーブルに



ハッピーフルーツケーキ

★新登場

原材料に卵・乳製品を使用せずに作ったケーキ

予約申込 ▶ 11月 1日～12月 5日

お届け日 ▶ 12月20日～12月24日



ハッピーノエル

ココアスポンジにチョコレートクリームを巻き込んだロールケーキ



ハッピーモンブラン

大粒のマロンを飾ったモンブラン



ハッピーショートケーキ

みずみずしいフルーツがたっぷり



ハッピーシュトーレン

ドイツの伝統的なクリスマスのお菓子

〈生命のフリーズ〉その真髓にせまる



ムンク展

《マドンナ》
1895年
オスロ市立ムンク美術館
©Munch Museum,Oslo



《不安》
1894年/オスロ市立ムンク美術館 ©Munch Museum,Oslo



《〈生命のフリーズ〉の
展示装飾のためのスケッチ》
1902-07年
オスロ市立ムンク美術館
©Munch Museum,Oslo



《森へ向かう子供たち》
1921年/オスロ市立ムンク美術館
©Munch Museum,Oslo

開催期間▶2007年10月6日(土)～2008年1月6日(日)
休館日▶月曜日[ただし10月8日、12月24日は開館、10月9日(火)、12月25日(火)、
および年末年始12月28日(金)～1月1日(火)は休館]

開催場所▶東京・国立西洋美術館
●JR「上野駅」公園口より徒歩1分
●京成電鉄「上野駅」より徒歩7分
●東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」より徒歩8分

開館時間▶午前9時30分～午後5時30分(毎週金曜日は午後8時まで)
※入館は閉館30分前まで

観覧料金▶

	一般	大学生	高校生
当日	1,400	1,000	800

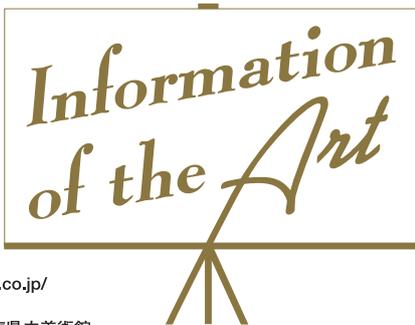
- 心身障がい者とその介護者1名は無料
- 中学生以下は無料

主催▶国立西洋美術館、東京新聞

問い合わせ先▶

- NTTハローダイヤル 03-5777-8600
- 東京新聞ホームページ <http://www.tokyo-np.co.jp/>

巡回情報▶2008年1月19日(土)～3月30日(日)兵庫県立美術館



愛と死、喜びや絶望といった「人間の魂の叫び」とも呼べるテーマを描いたエドヴァルド・ムンク。彼は自らを描いた作品の中でも、最も中心的な諸作品を「生命のフリーズ」と名づけ、それぞれを有機的に組み合わせ、全体としてひとつの作品としてみせるという壮大な構想を抱いていました。

本展ではオスロ市立ムンク美術館所蔵の代表的油彩・水彩・素描など108点を一堂に展覧します。この「ムンク展」の美術品取り扱いをヤマトロジステイクス株式会社が協力しています。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸(株)内)

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	平井 忠	TEL.022-374-8065
東京支部	名古屋健史	TEL.03-5564-3705
関東支部	森田雅哉	TEL.045-508-6106
北信越支部	青木浩昭	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	内山 修	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
沖縄支部	松茂良興三	TEL.098-840-3605



北信越支部
青木浩昭新事務長が就任
しました。
よろしくお祈りします。